

I 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

1

5

22

。

マスメディアと比較した際のソーシャルメディアの特徴として、近年の普及・利用の急速な高まり、交わされる意見の均質性と均質性の高さ、意見や立場の偏りの不可視化が指摘できる。これらの特徴はジェンダーをめぐる問題にも当てはまる。これまでの研究が指摘してきたように、インターネットの世界では露骨な女性差別的発言や表象が後を絶たない。それは一部の過激サイトやあからさまにミソジニー(女性ケンオ)¹を標榜^{ひょうぼう}する投稿に限られない。SNSでのごく一般的な投稿や何気ないやり取りのなかにも、既存社会にはびこる女性蔑視や差別を助長し再生産するような発言は見取れる。このありふれた現実を念頭に置いたうえで、アルゴリズムやAIの外見上の客観性や中立性が引き起こす問題を考える必要がある。^(注2)

Facebookの共同創業者・CEOのマーク・ザッカーバーグが唱えるように、より多くのユーザーが互いに「つながる」ことや「シェアする」ことを巨大IT産業が自らのミッションに掲げるのは、それが自社の莫大^{ばくだい}な利益につながるからである。人種・言語・宗教などさまざまな違いを超えて多様な人たちがSNSを介して出会い／つながり／分かち合うことを是とするソーシャルメディアの道徳的モットーは、実のところ巨大プラットフォームで交わされるさまざまなやり取り⇨情報を新たな「商品⇨データ」として新規ビジネスを企てようとするコミュニケーション資本主義のもくろみと分かちがたく結びついている。^(注3)

ソーシャルメディアが声高にアピールする社会的使命と抜け目なく追求するビジネスとの結びつきのもとで、ジェンダーをめぐる格差や差別が助長され、新たなかたちで再生産されていく。なぜなら、より多くのユーザーの注目と関心を引きつけ、より多額の利益を生み出すものであるかぎり、巨大IT産業はたとえ公式の場で口先だけの危惧を唱えたとしても、現実社会での偏見や差別の是正に本気で取り組むことなどないからだ。そのことは、これまで人種やエスニシティ^(注4)をめぐる差別的投稿の問題やユーザーに関わる個人情報保護に関してFacebookをはじめIT産業がどのような対応をしてきたかを振り返れば明らかである。さまざまな問題が生じ当事者・関係者からの異議申し立てを受けても、IT産業はきわめて消極的で自己防衛的な対策に終始してきた。そうした姿勢からは、解決策を提示するまでに多くの時間をあえて費やすことで、その間に自社利益を守る制度・

政策を実現させようとする思惑が見て取れる。この事実を踏まえれば、ジェンダーをめぐる偏見や差別がデジタル・テクノロジーを介して再生産される現状への対策として、IT産業による自主的かつ積極的な取り組みを期待するのは非現実的である。

A、リベラルな自社イメージの演出や企業理念としてのダイバーシティへの賛同にもかかわらず、テック産業は

Iの精神にきわめて²チュウジツであり、何であれ利益を生み出すものならば、それを自ら否定・キョヒ³することなど断じてないからだ。

今日、アメリカ合衆国やヨーロッパ諸国^Bで偏見や差別に根ざした人種・民族の対立や分断を煽ることがネット・ビジネスとして成立している(阿部 2019)。

B、経済的な苦境に追いやられているユーザー・国民からより多くのアクセス数と支持を獲得するために、^(注7)エスニック・マイノリティや移民の増加を苦境の「原因」と断定し、その否定的イメージをことさらに強調した発言・宣伝を繰り返るSNS上のサイトなどがその典型である。二〇一六年のトランプ大統領誕生の際には、そうしたネットでの差別・偏見とビジネスとの結びつきが注目された。それと同様に、既存社会に蠢く^{うごめ}ジェンダー差別へのニーズが厳然と存在し、プラットフォームを通してそれに発言の機会を与えることがビジネスとなるかぎり(Gerrard & Thornham 2020)、IT産業はそれを容認／継続するであろう。

現在、多くの人にとってSNSは便利な道具として生活に欠かせない。

C、そうした身近なソーシャルメディアがジェンダー差別を再生産しているので、⁴企業のジジョウ力や自主規制ではなく外部からの働きかけが必要である。そんな主張を

A、読者の多くは驚くだろう。^(注8)近年世間を賑わせる誹謗中傷やイジメ事件などを念頭にSNSへの介入の必要を感じながらも、国家規制ではなく^(注8)プロバイダーなど業界団体による取り組みに委ねるのが民主主義社会として望ましいと考える人も少なくないだろう。

だが、過去の経緯を振り返るかぎり、そうした期待の現実味は乏しい。その最大の理由は、これまでIT産業は自らをメディア企業とは考えず、あくまで情報発信・受信の場IIプラットフォームを提供しているに過ぎないと主張してきたからだ。情報の中身に関与しない姿勢を、テック企業は貫いてきた。だが近年、その無責任ともいえる姿勢は批判を受け、各国の法制度も変わ

りつつある。今後、プラットフォーム企業をどのような法規制のもとに置くべきかをめぐる議論がさらに高まるだろう。

私たちの日常を振り返れば、ソーシャルメディアを介した⁵ポウダイな情報がもたらす「意味」が日々の生活で大きな位置を占めていることに異論の余地はない。すでにIT産業は快適な日々を送るうえで不可欠な条件¹¹環境を作り上げてしまっている。水や空気など自然環境が汚染され健康被害が危惧されれば、その改善が当然のごとく求められる。それと同様に、日常を取り囲む情報環境が「健全な」状態でないならば、その是正が必要とされるのは当然ではないだろうか。これまでの議論で見えてきたように、デジタル・テクノロジーが映し出すイメージにはさまざまな **II** が見て取れる。だとすれば望ましい情報環境を「保全」するうえで、ジェンダー差別の解消が必要である。

今日的な情報環境の問題に取り組むうえで何より求められるのは、^C企業機密のもとに行われる情報収集・蓄積・分析・応用のプロセスの透明化である。現在、ユーザーはさまざまなアプリをダウンロードする際に事細かな規約を了承させられる。だが、あまりに専門的で長文にわたる規約文書が何を意味し、それが自らのネット利用にどのような帰結をもたらすのかは、多くのユーザーにとって謎であろう。実際には、便利なアプリをダウンロード／利用するために画面に表示される「同意します」をなけば自動的にクリックすることが常と化している。そうして得られたユーザーからの同意を根拠に、企業は自らに都合よく顧客情報を商品としてやり取りしている。プラットフォーム上で「自由に楽しく」過ごしているユーザーは、実のところはきわめて弱い／不利な立場に置かれているのだ。現在、GAF^(注9)Aがどのような思惑のもとで、どのようなプロセスを通じて、何を目的にユーザーの個人情報処理しているのかは、依然としてブラックボックス化されたままである。ここに見て取れる巨大IT産業の秘密主義体質の最たるものが、企業機密としてのアルゴリズム開発にはかならない。

^D 巨大企業が支配する情報環境の現実を **I** にすると、その力に対抗することはきわめて難しいものに映る。**D**、日々ごく当たり前になかば無自覚に利用しているSNSを介して、特定のジェンダー観に基づく偏見や差別が再生産され、しかもそれが客観的で中立なものを受け止められがちであるならば、その解消を目指すのは **ウ** に思われるだろう。だが、これまでフェミニズム^(注10)の問題意識のもとでテクノロジーとジェンダーとの関連を批判的に問いただしてきた研究伝

統は、今現在、そしてこれから将来のIT産業をめぐる規制のあり方を考えるうえで多くのヒントを与えてくれる。既存社会でのジェンダー・イメージやそれに根ざした偏見が新たなテクノロジーによって再生産されるのであれば、そのメカニズムを^{おひや}エにさらけ出し、そこに潜む問題の不当性を社会に対して訴えかけることで、より多くの人々に自らが暮らす情報環境を脅かす「汚染」について関心を持ってもらうことは決して夢物語ではない。当初、自然環境問題への危機意識は一部の人々に限られていた。だが、環境問題に携わる活動家・実践家・研究者の長きにわたる地道な訴えかけを通して、今ではグローバルに認知された喫緊の課題となっている。それと同様に、デジタル技術のさらなる発展のもとで情報環境の重要性が今以上に高まることとが見られる未来に向けて、「メディアとジェンダー」との問題意識のもとで批判的な学術研究と社会運動が連携しつつテクノロジーに潜む差別を問いただし続けることが必要である。それは、より自由で民主的な社会を実現するうえで不可欠な政治・社会的な課題にほかならない。

巨大IT産業が生み出す情報環境に潜む問題への反省的な意識が高まり、より多くの人が抗議の声を上げるようになれば、私たちが暮らすありふれたデジタルな日常は、きっと今よりも「健全」なものになるに違いない。

(阿部潔「巨大IT産業——テクノロジーに潜むジェンダー・バイアス」(『ジェンダーで学ぶメディア論』所収)より)

- (注1) ジェンダー——社会的・文化的に形成される男女の差異。性差。
- (注2) アルゴリズム——課題解決のための処理手順。
- (注3) Facebook——アメリカ合衆国の企業「メタ」が運営するソーシャルネットワークサービス(SNS)。
- (注4) エスニシティ——民族性。ある民族に固有の性質や特徴。
- (注5) ダイバーシティ——多様性。
- (注6) テック——テクノロジ。特にIT分野を指す。
- (注7) エスニック・マイノリティ——ある地域や社会における少数民族。

(注8) プロバイダー——インターネットに接続をするためのサーバーや回線などを提供する企業。

(注9) G A F A——グーグル(Google)、アップル(Apple)、フェイスブック(Facebook)、アマゾン(Amazon)の四社。

(注10) フェミニズム——女性の社会・政治・経済的権利を拡張し、女性の地位向上を目指す主張及び運動。

問1 ——線1～5を漢字で書いたときに用いる字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一

つずつ選びなさい。解答番号は、1 2 3 4 5 。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ケンオ | ① | 拳 | ② | 兼 | ③ | 堅 | ④ | 猷 | ⑤ | 嫌 | ⑥ | 顕 |
| 2 | チュウジツ | ① | 宙 | ② | 忠 | ③ | 抽 | ④ | 柱 | ⑤ | 鑄 | ⑥ | 衷 |
| 3 | キヨヒ | ① | 居 | ② | 許 | ③ | 拒 | ④ | 虚 | ⑤ | 距 | ⑥ | 拳 |
| 4 | ジジヨウ | ① | 剩 | ② | 冗 | ③ | 縄 | ④ | 壤 | ⑤ | 情 | ⑥ | 淨 |
| 5 | ボウダイ | ① | 紡 | ② | 忙 | ③ | 膨 | ④ | 棒 | ⑤ | 貌 | ⑥ | 某 |

問2 — 線 A「ジェンダーをめぐる格差や差別が助長され、新たなかたちで再生産されていく」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

6。

① 巨大IT産業が自社の莫大な利益を生み出すものを優先する立場であるために、自社の利益になるものであれば内容はどうであれそれを否定することなく、偏見や差別の是正に取り組むことはないから。

② 巨大IT産業が人種・言語・宗教などの差異を超えて多様な人々がつながる場を提供しながら活性化も推奨しているために、そこで生まれる軋轢あつれきは想定内であり、ユーザー同士での解決を求めているから。

③ 巨大IT産業がより多くのユーザーの注目と関心を引きつけるために、現実社会での偏見や差別の是正を取り上げて問題提起をすることで、ネットワーク上でも偏見や差別が流れ込むようになるから。

④ 巨大IT産業がユーザーの個人情報保護に関して消極的で自己防衛的な対策に終始したために、そのような態度が社会的な規範であるという誤った認識が現実社会に広まってしまっているから。

⑤ 巨大IT産業がその理念や企業イメージに対して偏見や差別への自主的かつ積極的な取り組みを行っていないために、リベラルな姿勢を持つ企業やダイバーシティへの賛同を行う企業の減少につながっているから。

問3

A

D

に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合は、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、A

7

B

8

C

9

D

10

① では

② 確かに

③ なぜなら

④ だが

⑤ たとえば

問4

I

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

11

① ユーザー優先主義

② コミュニケーション資本主義

③ 民主主義

④ 市場経済的社会主義

⑤ 事なかれ主義

問5

——線B「偏見や差別に根ざした人種・民族の対立や分断を煽ることがネット・ビジネスとして成立している」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は、

12

① 様々なユーザーからのアクセス数を獲得するために、投稿ごとに社会的立場を変え、立場ごとのニーズに応えることで利益を生むビジネスモデルが成立しているということ。

② 経済的な苦境にある人々からの支持を得るために、その人たちに都合が良い投稿を繰り返すことで、金銭的な支援を得るビジネスモデルが成立しているということ。

③ 政治家や著名人がSNSユーザーに対して偏見や差別に満ちた投稿をすれば、IT企業から利益の一部を受け取ることができるビジネスモデルが成立しているということ。

④ あえて少数派の人々を攻撃するような投稿をすることで、ユーザーから多くのアクセス数を獲得して利益を生み出すビジネスモデルが成立しているということ。

⑤ IT産業の消極的姿勢を逆手にとり、それを断罪する投稿を行うことで、大衆のアクセス数と支持を獲得し利益を得るというビジネスモデルが成立しているということ。

問6

ア ㄱ エ に入る語句として最も適当なものを、次の各群の ①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア

- | | | | | | | | | | |
|-----|-------|---|-------|---|--------------------------|---|-------|---|------------------------|
| ア ① | 口にしたら | ② | 耳にしたら | ③ | 手にしたら | ④ | 無にしたら | ⑤ | だしにしたら |
| イ ① | 目の当たり | ② | 目を皿 | ③ | 無きもの | ④ | 食いもの | ⑤ | 目の敵 <small>かたき</small> |
| ウ ① | 揚げ足取り | ② | 鶴の一声 | ③ | 至難 <small>むづか</small> の業 | ④ | 朝飯前 | ⑤ | 的外れ |
| エ ① | 白日のもと | ② | 恥 | ③ | 危険 | ④ | 眼前 | ⑤ | 水の中 |

問7

ㄱ線「今後、プラットフォーム企業をどのような法規制のもとに置くべきかをめぐる議論がさらに高まるだろう」について、以下の問いに答えなさい。なお、解答は、次の各群の ①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、(1) 17 (2) 18。

- (1) 動詞はいくつあるか。
- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5
- (2) 副詞はどれか。
- ① どの ② もとに ③ べきか ④ さらに ⑤ だろう

問8

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

19

- ① 懸念と危惧
- ② 偏りと歪みゆがみ
- ③ 批判と幫助ほうじょ
- ④ 分断と協働
- ⑤ 汚染と癒着

問9

——線C「企業機密のもとに行われる情報収集・蓄積・分析・応用のプロセス」とあるが、この説明として最も適当なもの、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

20

- ① 専門的な言葉で事細かに記載される、ユーザー規約文書の提示理由や目的の詳細のこと。
- ② 情報提供者が自由かつ楽しく利用できるために活用された、情報源の具体的名称のこと。
- ③ 半自動的なユーザーの同意によって得られた顧客情報の、商品としての販売価格のこと。
- ④ 企業機密で開発されるアルゴリズムによる、社会への影響や利益の将来的な展望のこと。
- ⑤ 情報提供者に秘密裏に行われる、IT企業による個人情報収集や活用の全貌のこと。

問10 — 線D「巨大企業が支配する情報環境の現実」とあるが、筆者はこれに対してどのように主張しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

21。

① SNSによる無自覚的な偏見や差別の再生産に対して個人々人がその構造を理解し、客観的で中立的なものではないという視点を持つことで、反省的な意識を高めていくべきだ。

② フェミニズム的な問題意識のもとで、テクノロジーとジェンダーとの関連を批判的に問いただしてきた研究伝統の手法を拝借し、より多くの人々が情報環境の「汚染」に関心を持つべきだ。

③ 偏見や差別に対する問題意識をもち、学術研究と社会運動が連携することで、テクノロジーによる差別や偏見の再生産のメカニズムが明らかになるよう抗議の声を上げ続けるべきだ。

④ 環境問題をグローバルに認知させた人々が長期的に訴えて成功したように、情報環境「汚染」に携わる活動家・実践家・研究者の活動を、民主主義的な社会のもとでサポートしていくべきだ。

⑤ デジタル技術がさらに発展を遂げていくため、情報環境の「汚染」を明らかにするカウンターテクノロジーを開発し、テクノロジーに潜む偏見や差別を制御していくべきだ。

問11 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

22。

① ソーシャルメディアはマスメディアに比べ、意見や立場の偏りが可視化されやすく、偏見や差別にあたる投稿が多い。

② IT産業は利益を重視するが、企業イメージ向上のためにSNS上の偏見や差別の言動には批判的な態度をとっていない。

③ 情報の中身に関与しないというIT産業の姿勢は大衆からの批判を受け、各国の法制度が整備されることになった。

④ 過去の研究はフェミニズム的な問題意識を持ち、テクノロジーとジェンダーとの関連を批判的に問いただしている。

⑤ 巨大IT産業が生み出す情報環境の「汚染」は、研究者と活動家の訴えかけにより、喫緊の課題となっている。

II 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

23

〜

42

。

〈お掃除ロボット〉は、「どのような場所で動作させているのか」により、そのふるまいに対するわたしたちの印象も変わってしまうことがある。それはどうということだろう。

A、ロボットを体育館のような広いところで走らせてみる。シンプルで平坦な環境^{へいたん}にあつては、その進行を妨げるものもなく、ただまっすぐに進み続けることだろう。まわりとのセッション¹機会も少ないためか、わき目もふらずに、プログラムに従ってひたすら動くだけ。どこか閉じた〈機械〉をイメージしてしまう。

I。洗濯機の「お任せモード」と同じで、「まあ、あとは任せたまよ！」と、少し距離を置きたくなることだろう。

もう少し小さな部屋のなかでの動きはどうか。部屋の壁にぶつかるたびに、「しょうがないなあ」とばかりクルリと回転し、次の方向へとまた進みはじめる。反射的でシンプルな動きにもかかわらず、どこか生き物のようにも感じられるのだ。

このときロボットが〈物理的な身体〉を備えていることの意味は大きい。ある場所を占め、その動きには向きがある。「部屋の壁にぶつかる」と、それ以上は進めない。仕方なく、その向きを変える」のは当たり前なことだけれど、それだけで親近感を覚えてしまう。モノにぶつかって弾かれる動きとも、プログラムのようなもので作り込まれた動きとも違う。行き当たりばったりにもかかわらず、なにか探し物でもしているかのように映る。「どこに向かおうとしているの？」と、その動きを思わず追いかけてしまうのである。

普段、わたしたちは「よもや機械に心が宿ることはあるまい」と考えている。それでも、目の前のロボットのふるまいの意味を解釈し、その動きの先を予測するとき、そこに物理的な法則やプログラムの存在を仮定するだけでなく、「その背後になんらかの意図があり、それに沿って合目的にふるまっているのではないか」と捉える方がしっくりくることもある。これはダニエル・デネット(Dennett, 1996)の指摘した「^A志向的な構え(intentional stance)」と呼ばれるものだろう。

テーブルや椅子の脚などに囲まれたところでは、ロボットの動きも ア なる。複雑な環境がロボットのセンサやアク^(注1)

チュエータにヒン²パンに活躍する機会を与えているのだ。それでも、わたしたちの目には、このロボットが「いろいろなところに目をくばりながら甲斐^か甲斐^{がい}しく働いている」ように映る。あるいは袋小路に入り込んで、そこから這^はい出^だそうと慌てていた、なんとか出口を見つけて、ホッとしたように動き出す姿などに、思わず自分を重ねてしまう。どこか他人事には思えないのだ。

部屋の隅にあつては、コツンコツンと壁に沿うようにして丹念にホコリをかき集める。その仕草がなかなか健^{けなげ}気^げでかわいい。そんなとき、ちよつといたずらをしてみてもおもしろい。その動きを足でふさごうとすると、「ちよつと、お掃除のじゃまをしないでよ！」と小突いてくる(ようにも思われる)。左右に小さく身体を揺らしながら、その場から逃れようとする。それはとても迷惑そうな仕草として映るのだ。

先ほど、広い空間にあつてはどこか融通の利かない(機械)に見えた。乱雑にモノが置かれたところにあつて、それらにぶつかり、ぶつかり移動する姿はどこか(生き物)のようでもあり、甲斐^か甲斐^{がい}しく働く姿にも映った。ちよつといたずらしながらかわつてみると、それに気づいてなのか、足をツンツンと小突いてくる。その動きは、わたしたちに向けられたもののように思われ、わずかながら(ソーシヤルなかわりのようなもの)も感じるのだ。

これらは大いなる錯覚なのだろうか。ロボットを取り巻いている環境の変化によって、そのふるまいも変わる。わたしたちの構えにも影響を及ぼすことで、ロボットを取り巻く環境は、物理的なものから、わずかにソーシヤルな性質を帯びるものとなる。それはロボットのふるまいの質をまた変化させることだろう。

発達心理学者のケネス・ケイ(Kaye, 1982)は、『親はどのようにして赤ちゃんをひとりの人間にするか』のなかで、「子どもはその周囲から人として扱われることで、人になっていくのだ」という。(お掃除ロボット)はヒトにはなれないけれど、わたしたちに囲まれているときには、(生き物らしさ)や(ひとらしさ)のようなものを感じることがある。同時に、そんなロボットとかかわっているとき、わたしたちはなぜかやさしい気持ちにもなる。

参照フレーム問題として知られるように、「そこに意図があること」と「そこに意図を感じること」の間には、大きな開きがあ

る。
B 人とロボットとのかわりを議論していく上では、観察者からの見えや対象に対する構えの変化は無視できない。
C 、とても興味深いのは、〈生き物らしさ〉や〈ひとらしさ〉は、個体に固有なものとして備わった属性なだけでなく、まわりとの多様なインタラクションの様式から立ち現れてくるようなのである。

〈お掃除ロボット〉を家庭のなかで動作させるには、本来はさまざまな事態を想定しておく必要がある。小さな子どもにぶつかり、ケガをさせることはないか。蚊取りセン³コウなどを倒して、火災を起こすことはないか。それらを一つひとつし、備えておくのは無理というものだろう。このロボットが一般家庭という実環境にあつて、まだ淘汰^{とつた}されることなく、生き延びることができていることに驚いてしまう。

〈お掃除ロボット〉としばらく一緒に暮らしてみると、〈拙さ〉や〈不完全なところ〉もいくつか気になってくる。お掃除してあげるはずが、床の上に置かれたスリッパを引きずりまわし、部屋のなかに散らかしてしまう。ケーブル類を巻き込んでストップしていたり、玄関などの段差から落ちてしまい、そこから這い上がれずに力つきてしまうこともある。

どこか不完全なだけけれど、なんだかかわいい、放っておけない気にさせるから不思議なものである。ロボットの張り切っている姿を見るにつけ、「自分もなにかしなくては……」と、自分のやれることを思わず探ってしまうのだ。

まわりからの応援を引き出してしまふ、このロボットの〈拙さ〉はどこからくるものなのか。能力がただ劣っているからではないだろう。「どうなってしまうかわからないけれど」と、いろいろなところにカ⁴カンに挑もうとする。多少の失敗をもとめせず、**ウ** としてしている。こういう〈拙さ〉は、どこか自分にも思い当たるところがある。「自分の力だけで、なんとしても……」という拘^{こたわ}りを捨て、不完全ながらもまわりに委ねてしまう。例の行き当たりばつたりな行動スタイルである。そんな外に開いたロボットの姿勢に対して、わたしたちも **II** 。

ロボットの進行に先んじて妨げになりそうなものをどかしてあげる。袋小路に入り込むことのないようにと、テーブルや椅子を整然と並べ直す。観葉植物の鉢のレイアウトを変え、玄関にあるスリッパをせっせと下駄箱のなかに戻す。「なんだか手間のかかるロボットだなあ」と思いながらも、**エ** 悪い気はしない。ロボットに掃除してもらおうのもうれしいけれど、ほんの

少し手助けになれているという感覚も捨てがたい。一緒に手を動かすなかで、いつの間にか部屋のなかも整然と片づいていたりする。気のせいかな、ロボットの動きもカイチョウになり、どこか楽しそうにも感じられるのだ。

わたしたちとロボットは、ここでお掃除することを競い合っているのではない。ときおりケーブルを巻き込んでストップしてしまうが、〈お掃除ロボット〉は床の上のホコリを吸い集めることに長けている。わたしたちに支えられながら、自らの行為の可能性を探りつつ、黙々と自分のやれることに専念している。

D、わたしたちもロボットの不完全なところを補いながら、「このロボットのためになができるのだろう」と自らの行為の可能性を探っているところがある。ホコリを丹念に吸い集めることはできないけれど、ロボットに先んじて進行を妨げるモノを取り除くような予測能力には優れている。部屋のなかのレイアウトをデザインし、たやすく変えることもできる。こうして相手の〈拙さ〉を補おうとするなかで、自分の役割や立ち位置を見つけることができるのはうれしいものだ。

「ホコリを吸い集めるのは、あなたに任せましたよ!」テーブルや椅子のレイアウトの調整については、わたしに任せてね!」とお互いに仕事を分け合う。不得手なところを相手に委ねながら、一方で自分の〈強み〉を生かそうとする。人とロボットとの間でも、そんな連携というか、棲み分けは小気味いい。ようやく自分の居場所を見つけ、ほっとする感じだろうか。その意味で、わたしたちも自らの立ち位置を見いだす上で、少しはロボットの手を借りていたということだろう。

まだ拙さも残る〈お掃除ロボット〉が実世界で生き延びているのはどうしてなのか。こうして考えてみると、人とロボットとの〈共生〉とは、必ずしもお互いの個々の能力を高め合うことばかりではない。ポイントの一つは、「自分の判断でなんとかしなければ……」という拘りを捨てて、その一部をまわりに委ねてみることだ。自らの〈不完全なところ〉を自覚しつつ、それを適度にさらしてみる。行き当たりばったりにも思えたロボットのふるまいが部屋の壁に意外な役割をもたらしたように、そんな姿勢がまわりの手助けや〈強み〉を引き出すものとなる。まわりを味方にして、〈ひとつのシステム〉を作り上げてみる。すると、はじめに気になっていたロボットの〈拙さ〉や〈不完全なところ〉は、いつの間にか、その豊かなかわりのなかに隠れてしまうのである。

(注1) アクチュエーター——エネルギーを物理的な運動に変換する装置。ここではロボットの駆動装置のこと。

(注2) インタラククション——交流や相互作用のこと。

問1 ———線1～5を漢字で書いたときに用いる字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一

つずつ選びなさい。解答番号は、1 23 2 24 3 25 4 26 5 27。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | セツシヨク | ① | 食 | ② | 飾 | ③ | 触 | ④ | 殖 | ⑤ | 拭 | ⑥ | 職 |
| 2 | ヒンパン | ① | 版 | ② | 班 | ③ | 犯 | ④ | 藩 | ⑤ | 汎 | ⑥ | 繁 |
| 3 | センコウ | ① | 黄 | ② | 香 | ③ | 候 | ④ | 効 | ⑤ | 紅 | ⑥ | 醇 |
| 4 | カカン | ① | 陥 | ② | 敢 | ③ | 冠 | ④ | 貫 | ⑤ | 勸 | ⑥ | 寛 |
| 5 | カイチヨウ | ① | 快 | ② | 怪 | ③ | 懷 | ④ | 塊 | ⑤ | 階 | ⑥ | 戒 |

問2 A D に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

ただし、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合は、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、A 28 B 29 C 30 D 31。

- ① 例えば ② 一方で ③ くわえて ④ または ⑤ それでも

問3

I

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

32

① 不器用だけれど、愛情深い

② ひたむきだけれど、融通が利かない

③ 機械だけれど、機械には見えない

④ シンプルだけれど、間違いがない

⑤ 周到だけれど、制約が多い

問4

線「部屋の壁にぶつかると、それ以上は進めない」について、以下の問いに答えなさい。なお、解答は、後の①～

⑩のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、(1)

33

(2)

34

。

(1) 単語はいくつあるか。

(2) 助詞はいくつあるか。

①

1

②

2

③

3

④

4

⑤

5

⑥

6

⑦

7

⑧

8

⑨

9

⑩

10

⑪

11

⑫

12

⑬

13

⑭

14

⑮

15

⑯

0

問5 — 線 A「志向的な構え」とあるが、本文における「志向的な構え」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、35。

- ① 機械がなんらかの意図のもとに行動していると考え、その意思を可能な限り正確に捉えようとする。
- ② 機械に対して好意的な感情を持って接すること、その機械がより活発に動作しているはずだと捉えること。
- ③ 機械が動作している場所が複雑なときは、その機械に対する印象が変化してしかるべきだと捉えること。
- ④ 機械が意思を持つことはないという理解しつつも、本当は意図があつて行動しているのだろうと捉えること。
- ⑤ 機械の動きを思わず追いかけてしまうのは、その機械が「物理的な身体」を備えているからだと捉えること。

問6

ア ア イ ウ エ オ に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 36 イ 37 ウ 38 エ 39。

- | | | | | | |
|---|----------|---------|---------|----------|----------|
| ア | ① おぼつかなく | ② あっけなく | ③ あどけなく | ④ せわしなく | ⑤ 抜け目なく |
| イ | ① 完成 | ② 網羅 | ③ 相殺 | ④ 操作 | ⑤ 羨望 |
| ウ | ① 整然 | ② 騒然 | ③ うっとり | ④ あっけらかん | ⑤ ざっくばらん |
| エ | ① まんざら | ② とうてい | ③ さらにさら | ④ うっかり | ⑤ あまりに |

問7

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

40

- ① 応えずにはいられないのだ
- ② 諦めずにはいられないのだ
- ③ 開かずにはいられないのだ
- ④ 拘らずにはいられないのだ
- ⑤ 辞めずにはいられないのだ

問8

——線B「わたしたちも自らの立ち位置を見いだす上で、少しはロボットの手を借りていた」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

41

- ① わたしたちは、ロボットに役割を与えることによって自分の〈拙さ〉と向き合い、不完全な自分もまた自分であると認めることができるから。
- ② ロボットの〈拙さ〉を補うことで、人と人の間に交流が生まれ、他者との交流を通じてあいまいだった自分の役割を明確にすることができるから。
- ③ ロボットによって定められた役割をわたしたちが理解し、実行することで、わたしたちは自分の役割や立ち位置を見いだすことができるから。
- ④ 人とロボットが連携することで、人はロボットの〈強み〉を見いだし、その〈強み〉を生かして自分の居場所を作ることができるから。
- ⑤ 人はロボットの〈拙さ〉を補おうとすることで、ロボットと自身の役割分担を意識し、そこに存在意義まで見いだすようになったから。

問9

本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

42。

① 洗濯機の「お任せモード」と同様に、人はロボットの動きに自分を重ねることで、ロボット自体を頼りがいのある存在だと感じる。

② 〈お掃除ロボット〉はモノにぶつかりながらも懸命に働き、いたずらをされれば、迷惑であるという気持ちをわたしたちに訴えかける。

③ ケネス・ケイは、ロボットがヒトに囲まれているときには、ロボットから〈生き物らしさ〉のようなものを感じとることがあるという説を提唱した。

④ 〈お掃除ロボット〉と人が競い合いながら手を動かして掃除をすることで、部屋のなかがより片づき、掃除の成果が最大のものとなる。

⑤ 人と〈お掃除ロボット〉との関係から、不完全な部分を周囲にさらして互いが補い合うということも、〈共生〉であると考えられる。